

「回水！（金返せ！）」

久しぶりに香港市民の腹の底から沸き起こる怒りの声が伝わってきた。春節を直前に控えた2月4日、香港でサッカー親善試合、香港リーグ選抜vs米MLSインテル・マイアミ戦が行われた。あのスーパースター、リオネル・メッシ選手が香港に来るのである。そのプレーを一目見たいと4万人近い観衆がスタジアムに足を運んだ。メッシ選手の人気にあやかろうとする香港政府は1600万HKドル(約3億円)の協賛金を出すことを決め、イメージ回復に一役買ってくれることを期待した。

ところが選手側は素っ気ない。試合前、行政長官以下政府高官と一緒に写真を撮ろうとコートでそわそわしていたのに選手は素通り。試合が始まってもメッシ選手はベンチに座ったまま。まさか。後半になってもメッシ選手が出場する気配はない。観客の焦りと失望でブーイングが起きる。

「回水！」筆者はこの広東語を知らなかったが、「返金」の意味で、飲茶の急須に一度入れた水(お湯)を戻すことに由来するらしい。結局メッシ選手はピッチに立たず、試合後の挨拶もないまますぐに次の予定・日本に向かったので観客の怒らないことか。

その怒りは香港政府に向けられる。政府は今年、文化やスポーツイベントの開催によりコロナ禍

で減少した観光客を呼び戻し、2019年の混乱以来傷ついたイメージの回復を図ろうと乗り出した矢先だった。イベントに飛びついたはい



が、主催者側と契約条件を詰めていなかったようで、政府のわきの甘さも露呈しメンツ丸つぶれだった(後日、主催者が申請取り下げ、入場料は半額返金)。

この事態に対し、香港メディアが「陰謀論」を持ち出した。メッシ選手の欠場理由はケガだったが、日本では出場(後半)したことで政府も引っ込みがつかなくなった。香港のイメージアップを快く思わない海外勢力が仕組んだ陰謀だ、と声高に主張し始めたのである。「香港は国安法で自由がなくなった」「香港はもう終わり」という言説に対して「香港は健在」というカウンターナラティブ(別のストーリー)を広めようとするが、思うようにはいかない。

そして1カ月後、北京で開かれる政協、全人代初日に出席していた政府関係者は香港にとんぼ返り、それからわずか11日の電光石火で香港国家安全条例を可決した。議会に反対の声はなく、街角でも抗議の声は上がらない。メッシさん、思いっきり怒りをぶつけさせてくれてありがとう！

(アジア研究所教授 遊川和郎)

＊ 研究所だより ＊

昨年度第3回のアジア研究所セミナー「アジア・ウォッチャー」を以下のとおり開催しました。

日時 3月9日(土) 14時から15時30分まで

講師 鳥居 高氏(明治大学商学部教授)

テーマ 「マレーシアの輪番制国王と変化する役割」

また、昨年度の研究プロジェクトの成果と紀要も研究所ホームページ

([https://www.asia-u.ac.jp/research/asian-in](https://www.asia-u.ac.jp/research/asian-institute/laboratory.html)

[stitute/laboratory.html](https://www.asia-u.ac.jp/research/asian-institute/laboratory.html))に掲載されました。ぜひご覧くださいませようお願いいたします。

今年度も皆さまの関心の高いトピックを選んで成果発信に向けて準備中です。公開講座は「アジアにおける構造的失業と外国人労働」との統一タイトルで6月から7月にかけての開催を予定しております。今後もアジア各国の情勢についての確かつタイムリーな情報提供に努めてまいります。皆様のご意見・ご要望をお寄せください。

(koza@asia-u.ac.jp)